

# 田原市議会傍聴記

地方政治  
クリエイト  
伊藤 秀昭

## ◆食育推進

中神靖典氏(自民

クラブ)は、田原市には子供の頃から新鮮な食材に親しめる環境が整っており、食育の輪を市民全体に広げていくことが重要であるとして食育の現況評価を聞いた。

食育の推進」と「多様な暮らしに対応した食育の推進」が課題として挙げた。中神氏は食育が田原の活力につながるとし、その大切さが市民に浸透するよう期待した。

## ◆サーフタウン構

産業振興部長は「規則正しい食生活の推進など55項目の施策を設け、進行管理を行っている」とし、今後の展開については「若い世代の

全国有数のサーフィンスポットが強みであるとし、田原市はこの強みを生かした田原の創生をめざすサーフタウン構想を掲げるが、市民に

はそのイメージがわかず、サーファーのマイナスイメージもあるとの問題提起したのは赤尾昌昭氏(市民クラブ)。

企画部長は「サーフタウン構想はサーファーや観光客、地元住民らが交流するまちを目指す」とし、東京や横浜を背後地とした湘南のイメージを強調するが、地方の農業地帯にどのような定着させて、サーフィン文化を根付かせるか。

サーフィン環境の向上や地域特性を尊重したコミュニケーションとの合意形成など、課題は多い。

津波防災地域 小川貴夫氏(自民クラブ)は東日本大震災で津波により甚大な被害を受けた海岸を視察に行った衝撃から、田原市防災地域づくりについて質問した。

小川氏は、空き家の解体費用補助や簡易耐震対策(簡易シェルター)の年齢制限を解除し、経済的に大変な人や体の不自由な人へのきめ細かい取り組みと着実な実行を要請した。

給食の現状 「今日の昼食は充実していましたか」と質問を始めた森下

提供時間を2時間目の後にしたらどうか」など、長年の教職の経験からの問題提起には説得力があった。

若者の政治参加 辻史子氏(公明)は若者の政策形成過程への参画や若者に投票行動を促す取り組み、主権者教育の必要性を質問した。

# サーフタウンへ着実な取り組みを

田嘉治氏(自民クラブ)は、地域特性に応じた被害想定やその対策、特に避難方法の確立が急務であると強調した。

森下氏は、市全域がセンター方式になって2年後のアンケート結果を踏まえ、栄養教諭やアレルギー対策、地元食材などについて質問

辻氏は市内で行った若者を対象にしたアンケート活動の経験から、「若者の政治への参画は投票率の向上だけでなく、若者を巻き込んだまちづくりそのものであり、社会形成の主役であるとの意識改革の必要性を説いた。

2日間の一般質問期間中は、都知事の進退に国民の目が集まり、政治に携わる人の在り方が問われた。若者はどんな思いでこの事態を見たのだろうか。